

## ■効果の見える治水事業

### 高知県 エビス前地区(高岡郡四万十町)の急傾斜地崩壊対策事業

#### 「地域の避難場所を守る急傾斜地崩壊対策事業」

高知県土木部防災砂防課長 加藤 仁志 かとう ひとし



高知県では、いついかなる土砂災害が発生しても土砂災害による犠牲を出さないことを目標として、ソフトとハードが一体となって「的確な避難」を目指す“Mission0プロジェクト”を推進しています。ソフト対策としては、土砂災害警戒区域等の指定を推進し、警戒避難体制の整備及び地域住民への周知活動を行い、「的確な避難」が実現するよう事業を進めています。ハード対策としては、「安全な避難」を確保するという視点に立ち、人命保全上特に重要な避難所、災害時要援護者施設、地域防災拠点等の優先的な保全を行い、より効果的な事業を推進しています。

当該地区は、清流四万十川の中流域に位置し、保全対象として人家13戸、七里小学校、県道を含む急傾斜地です。人家の背後は急峻で脆弱な長大斜面が広がっており、降雨の際には斜面崩壊が頻繁に発生しているため、早急な対策が望まれていました。

事業区間は、地域の避難場所である七里小学校を中心とした延長約400mの区間で、平成17年度に急傾斜地崩壊危険区域に指定し、同年より整備を始めました。斜面が長大であることから、対策工は待受タイプの擁壁を計画し、七里小学校から優先して整備を進め、平成21年に概成する予定です。

当該地区では、平成17年度に自主防災組織が結成され、地域と一体となった避難訓練を実施するなど、自助、共助の取り組みが行われ、土砂災害に対する防災意識が高まっています。

高知県では、土砂災害対策施設の整備を進める一方、市町村と一体となり、土砂災害に対する地域の方々の防災意識を高めるため、防災学習会の開催などを県内全域で進めています。今後もソフトとハードが一体となった取り組みを継続することにより、地域の防災力を高め、土砂災害による犠牲者ゼロを目指して事業を推進していきたいと考えています。

